

[認知症対応型共同生活介護用]

調査報告概要表

作成日 平成19年8月1日

【評価実施概要】

事業所番号	(※評価機関で記入) 4675900106
法人名	社会福祉法人 桃 蹊 会
事業所名	グループホーム サンライト
所在地	鹿児島県霧島市牧園町高千穂3617番地640 (電 話) 0995-78-2320
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂本町27-5 前田ビル1F
訪問調査日	平成19年8月1日

【情報提供票より】19年6月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 11 月 14 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	12 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 14.1

(2)建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	階 ~ 1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費約3,000円+実費
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	700 円	

(4)利用者の概要(6月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	4 名	要介護2	8 名		
要介護3	1 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 83.3 歳	最低	70 歳	最高	98 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	霧島桜ヶ丘病院 霧島温泉クリニック 永利歯科医院
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

霧島の豊かな自然に囲まれ、季節の移り変わりを身近に感じられる環境の中に建てられた和風の平屋造りのグループホームである。同敷地内には、母体となっている社会福祉法人の福祉施設や医療施設・介護施設があり、連携を密に取り、利用者の医療面や安全面の充実、職員間や利用者との地域の人たちとの交流を図っている。管理者をはじめ職員は、利用者一人ひとりの尊厳を大切にケアを行っており、家庭的な雰囲気の中で利用者との職員がお互いに支えあい、明るくいそいそと過ごすことができるよう取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で市町村との関わりについて、ホーム側からの積極的な働きかけをしていくことが課題にあげられており、運営推進会議に地域包括支援センターの職員に出席してもらうことから、徐々に連携を図っていけるよう取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員がこれまでの自らのケアを振り返る機会と受けとめ、自己評価を職員全員で行い、サービスの質の向上に努めている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	利用者家族・地域包括支援センター職員・民生委員の出席があり、事業所の行事報告や外部評価の説明と結果報告を行うとともに、出席者から意見や要望を出してもらい、それについて話し合い、サービスの向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の訪問時に意見や要望等を積極的に聞くように努めており、運営推進会議においても、家族から運営に関する意見や要望が出ている。ホーム便り送付時に返信用の手紙を同封し、家族の要望などを書いてもらったり、年二回アンケートを実施し運営に反映させていくよう取り組んでいる。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	同じ敷地内にある法人内の施設の行事や催しに参加し、地域の人たちと交流したり、年一回近隣の小学校の子供たちと交流する機会を設けているが、地域の行事や必要とされる地域活動への参加は行っていない。

調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	施設全体の理念に加えて、グループホームの特性に合った理念を職員で検討し、独自の理念を作り上げてはいるが、地域の中で生活していくという視点での検討は、まだ行っていない。	○	利用者が地域の中で暮らし続けるうえで、グループホームとして何を大切にしていくのか、果たすべき役割について職員全員で再検討し、地域密着型サービスとしての理念をつくりあげて欲しい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日朝礼時に職員全員で理念を唱和し、理念を意識したケアに取り組むよう努めている。月一回の職員会議においても、理念について話し合う機会を持っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人内施設で開催している俳句会や文化祭・夏祭りなどの行事に参加して、地域の人々と交流する機会を設けている。また、地域の小学校の子供たち手作りのカレンダーをもらったり、グループホームから雑巾を提供するなど年一回交流を行っているが、ホームとして自治会への加入はなく、地域行事や必要とされる活動への取り組みは行っていない。	○	地域とのつながりが少なくなっていく利用者を支え、地域の中でその人らしく暮らし続けることを支援するために、事業所側から積極的に地域との関係を作っていくことが望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員が自らのこれまでのケアを振り返る機会と受けとめ、全職員で自己評価を行い、サービスの質の向上に努めている。外部評価の結果を職員会議で報告し、改善に向けて話し合いや取り組みを行っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者家族・地域包括支援センター職員・民生委員の出席があり、グループホームの行事報告や外部評価の説明・結果報告を行うとともに、出席者から意見や要望を出してもらい、サービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者に電話で質問等の問い合わせは行っているが、サービスの質の向上と一緒に取り組んでいくための関係作りや事業所からの積極的な情報提供などは行っていない。	○	地域密着型サービスとして市町村と連携を図り、運営やサービスの課題解決に向けてともに取り組むことが必要であるため、市町村担当者に事業所の考え方やケアサービスの取り組みを積極的に伝えてホームを知ってもらい、協働関係作りを進めていくことが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ホーム便りを発行し、ホーム全体の様子や行事の案内をするとともに、利用者一人ひとりの暮らしぶりや健康状態を手紙で知らせている。金銭管理については訪問時に出納帳を確認してもらい、遠方の家族には三ヶ月毎に報告している。職員の異動があった場合は訪問時に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時に要望や意見などを積極的に聞くように努めており、運営推進会議においても、家族から運営に関する意見や要望などが出ている。ホーム便り送付時に返信用の手紙を同封し、意見や要望を書いてもらったり、年二回アンケートを実施しそれらを運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、馴染みの管理者や職員によるケアの重要性を十分認識しており、職員の異動や離職を最小限に抑えるように努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に職員全員が勤務として順番に参加し、職員会議で研修報告を行っている。法人内研修にも積極的に参加を促し、月二回勉強会を開いている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	始良伊佐地区グループホーム協会に加入し、管理者だけでなく職員も研修会に参加し、他グループホーム職員と交流や意見交換を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用を決める前に、利用者と家族に見学してもらい、職員や他の利用者と一緒にお茶を飲みながらしばらく過ごしてもらう等の取り組みを行っている。馴染みながら安心して利用してもらうために、まず職員との信頼関係作りに努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は家族のような関係を大切にしており、人生の先輩である利用者から教わるという気持ちで接し、助言をもらったり、お互いにできないところは助け合い支えあう関係を心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中で、利用者の思いや暮らし方の希望・意向を引き出すように努めており、「気づきシート」に記入し職員間で情報の共有を図っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本位の介護計画となるように、本人や家族の意向をとりいれ、医師や栄養士、看護師等の関係者の意見を参考に、職員で話し合い介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しはもとより、毎月モニタリングを実施し本人や家族の意向を確認するとともに、状況に応じて介護計画を変更し、現状に即したケアができるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況や要望に応じて、デイサービスやリハビリの送迎・通院介助・美容院の送迎等の支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関のほか、本人及び家族の希望するかかりつけ医(眼科、皮膚科など)と連携を図り、適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	グループホームの方針として、重度化した場合や終末期のケアは行わないことを利用時に重要事項説明書で説明し、同意を得るようにしている。主治医と連携を図り、急変時や重度化した場合は適切な対応ができる体制となっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	勉強会において職員の意識の向上を図るとともに、理念に掲げた「尊厳なる人間性の尊重」に基づいたケアを心がけている。個人記録は事務所に保管し、ホーム便り等に写真を掲載する際は了解を得るなど、プライバシーの確保の徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、利用者一人ひとりのその日その時の体調や気分に合わせて柔軟に対応し、本人のペースを尊重した暮らしを支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みや苦手なものを踏まえ、旬の食材をとり入れたメニューを工夫し、皮むきや下ごしらえ等の準備や後片付けを利用者の個々の力を活かしながら職員と一緒にやっている。利用者と職員が同じテーブルにつき、食事が楽しくできるような雰囲気作りも大切にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日を除き、毎日利用者の希望に応じて入浴できるよう支援しており、一番風呂や湯温・長風呂等、生活習慣や希望に副ってゆったりとくつろいで入浴できるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴や力を活かして、調理や後片付け・洗濯物たたみ・掃除・お盆拭きなどの役割の場面や、踊り教室や塗り絵・ドライブ・買い物等楽しみごとや気晴らしの支援を行っている。お願いした仕事が終わった時は感謝の言葉を添えるようにしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の体調に配慮しながら、ドライブや買い物・踊り教室等に交代で出かけており、施設内の散歩も日常的に出かけ、戸外で過ごす機会を作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外出傾向のある利用者について職員が所在の確認や様子の把握に努め、外出の気配を察知した時は一緒に散歩に出かける等の支援を行っている。突発的に外出する傾向がある為玄関にチャイムを設置しており、日中は玄関に鍵をかけないよう取り組んでいる。同敷地内の施設にも見守りや連絡を依頼している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年二回、消防署の協力を得て同敷地内にある病院や施設と連携を図り、防災訓練や昼夜を想定した避難訓練を行っている。日常の散歩の時に非常時の避難場所の確認をし、いざという時にあわてずに避難誘導できるよう取り組んでいる。	○	火災時の避難訓練に加えて、地震等の災害を想定した訓練や備品や備蓄について検討してもらいたい。また近隣住民への災害時の協力依頼等への取り組みも今後期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士と連携を図り栄養管理を行っており、食事や水分の摂取状況を記録している。利用者の嚥下・咀嚼状況に応じてきざみ食にしたり、とろみをつける等個別に管理栄養士や医師の指導に基づいて支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭を中心にして食堂や和室は自然光が適度に入り明るく、落ちついて過ごせる空間となっており、季節の花や装飾品が飾っており、ゆったりと落ちついて過ごせるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や使い慣れた日用品・ラジオ等が持ち込まれ、一人ひとりの生活スタイルや希望に合わせて家具を配置し、写真や壁掛けを飾り、居心地よく過ごせるよう支援している。		